

第2学年D組 音楽科学習指導案

- 1 題材名 曲の構成に注目しながら、曲想の変化を味わおう（2時間）
教材名 鑑賞「交響曲第5番 ハ短調」第1楽章（作曲者 L.v. ベートーヴェン）

2 題材について

《学習指導要領との関わり》

B鑑賞 (1) ア(ア)、イ(イ)

〔共通事項〕(1) ア 音楽を形づくっている要素：リズム、旋律、形式

・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：リズム、旋律

イ 取り扱う音符、休符、記号や用語：動機

(1) 題材観

本題材では、「曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと」「曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること」を扱う。動機がどのように変化、発展していくかということを手掛かりに、「交響曲第5番ハ短調」のよさや美しさを味わわせることをねらいとしており、生徒が感じ取った曲想と音楽の構造との関わりを結び付け、理解させたい。そのためには、これまでの学習を基盤とし、「交響曲第5番ハ短調」の雰囲気や表情、味わいなどの感じ方が、どのような音楽の構造によって生み出されているのかを捉えていくことが重要である。9年間の義務教育課程のまとめに向かって学び深める段階である中学2年生の生徒たちが、これまでに身に付けてきた知識や考え方を活用して音楽のよさや美しさを味わう姿を目指したい。知覚したことと感受したこととの関わりや、その根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことで、生徒がこれからの人生で出会う様々な音楽をより深く理解し、味わいながら音楽と関わっていくことができる力を身に付けさせたい。

(2) 指導観

＜教材について＞

「交響曲第5番 ハ短調」は、冒頭で強く演奏される動機がとても印象的な楽曲である。冒頭の動機は、曲を通して繰り返し用いられ、変化・発展させながら作曲されている。第1楽章はソナタ形式でつくられ、提示部では、2つの対比的な主題が用いられている。動機を何度も隙間なく繰り返して演奏される第1主題のハ短調と、滑らかな旋律の裏で動機が隠れて出てくる第2主題の変ホ長調によって構成されている。この2つの主題の曲想の変化が対照的で捉えやすく、曲想の変化と音楽の構造との関わりを結び付けやすい。また、第1楽章を通して出てくる動機が、提示部、展開部、再現部、コーダと進んでいく中で、どのように変化、発展していくかということを手掛かりに、曲想を味わい、動機が繰り返し演奏されることのよさや面白さを考えさせたい。

第1時では、動機の変化に注目して提示部を鑑賞する。第1主題と第2主題それぞれを、曲想と音楽を形づくっている要素を結び付けながら聴き、共有することで、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、その根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴かせたい。

第2時ではソナタ形式について理解し、曲全体を味わって聴く。提示部、展開部、再現部、コーダのそれぞれの知覚したことと感受したことを関わらせて考え、曲想と音楽の構造とのかかわりについて理解させたい。

＜研究の視点との関わり＞

【視点1】〔共通事項〕を支えにした、9年間の学びの連続性を考えた授業づくり

①学び方の共有

○知覚したことと感受したことを区別して捉え、それらの関わりについて考えを深める思考ツールの活用

小学校では、聴き取ったことと感じ取ったことを関わらせながら、音楽的な見方・考え方を働かせて音楽の特徴を捉える学習を進めている。中学校でも、小学校で経験した学び方を活かすことで、知

覚したことと感受したことを区別したり、それらの関わりについて考えを深めたりする学習を更に進めていけるようにしたい。

本題材では、知覚したことと感受したことを区別して捉え、その関わりについて考える手立てとして、思考ツールを活用する。「くらげチャート」を横型にアレンジした型を使用し、音楽を形づくっている要素の変化や、要素同士の関わりによってつくられた曲想を視覚的に整理できるようにする。また、思考ツールを用いることで、生徒同士は同じ思考の流れを共有できるようになり、対話的・協働的な学習によってより学びが深められるようになると考える。思考ツールを活用して身に付けた音楽的な見方・考え方で学習を積み重ねていくことによって、生徒が主体的に音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにしたい。

【視点2】主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

①音楽的な見方・考え方を働かせるための効果的な指導の手立て

○知覚したことと感受したことを言葉で表現するための手立てとなるサポートシートの活用

生徒は、音楽を聴いてよさや美しさについて気付くことができたとしても、語彙力の乏しさから適切に言葉で表現することに難しさを感じることもある。そこで、本題材では、音楽を形づくっている要素や音楽の雰囲気について述べる語例をまとめたサポートシートを活用する。生徒は、音楽を鑑賞した際、サポートシートから自分の考えに合う言葉を選んで表現できるようにする。そして、自分が知覚したことや感受したことを言葉で表現する力を育て、音楽のよさや美しさを友達と共有する楽しさをより味わえるようにしたい。

○楽譜の活用

楽譜を活用して音楽を鑑賞することは、楽曲の理解を深める方法として有効だと考える。楽曲の理解の深まりは、音に出会う瞬間の「きっかけの楽しさ」を深めることにも繋がる。そこで本時では、動機の音型に着目しながら鑑賞し、第1主題の特徴を把握する学習において活用する。

まず聴覚のみで第1主題の特徴のおおよそを捉えさせる。次に楽譜を一種のグラフィックのように眺めさせ、動機の現れ方について確認またはイメージしながら聴かせる。視覚的なアプローチが加わることで、作曲者の意図や、その楽曲の構造、全体像を把握しやすくなる。この一連の過程において、生徒自らが音楽の構造や特徴（動機の繰り返し、旋律の重なり方）に気付くことができるとともに、音楽のよさや楽しさを実感することができるものと考えられる。

②個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

○一斉、小グループ、個人の学習活動における場面設定の工夫

自分の考えに自信がもてず、全体の中では意見を発表することが難しい生徒も一定数いる。小グループで共有し認められる経験を積み重ねることで、次第に自信をもって意見を出せるようになるであろう。このことは、一斉学習の場面において、多様な意見を認め合う学習の雰囲気を醸成できると考える。本時では、学習形態を「一斉→個別→グループ→一斉」の流れで設定し、各場面において次のように工夫していく。

まず、楽曲との出会い、動機について理解する場面では、一斉の形で曲の印象について感想を出し合ったり、全員で動機のリズム打ちをしたり、動機の使われている回数を数えたりする活動を行う。これにより生徒は心を解放しながら聴き、関心を高め、学習のきっかけとなる楽しさを得ることができよう。思考ツールを活用しながら楽曲の各部分を鑑賞する場面では、まずは個でじっくりと音楽を聴き、サポートシートを活用しながら自分の考えを整理し、言葉で表現できるようにする。次に、小グループで対話的に考えを共有し、同じ考えがあれば印をつけたり、新しい意見は色を変えて思考ツールに記入したりすることで、個で行った思考を更に広げ深めることができるようにしたい。

【視点3】評価の在り方

本時では、生徒が知覚したことと感受したことを関わらせながら鑑賞できるよう思考ツールを活用し、さらに自分と異なる視点や考え方・感じ方に気付くことで、自分の考えや感じ方を深める姿を目指したい。思考ツールを活用することで、提示部の2つの主題における曲想の違いを感受して左枠（くらげチャートの頭）に記述し、動機に注目しながらリズム・旋律の変化を聴き取り、区別して右側（くらげチャートの足）に記述することができるだろう。そして、知覚と感受を関わらせて思考し、「逃げる感じがしました。なぜなら、動機が細かいリズムで何度も演奏されるからです」または「動機が細かいリズムで何度も演奏されていました。だから、逃げていく感じがしました」などと言葉で伝え

合うことができるだろう。言葉で伝え合うことで、自分の考えを明確にしたり、新たな考えを得たりして、楽曲や音楽の構造のよさ、面白さを見出して聴いている姿を見取っていききたい。

3 題材の目標

- 曲の構成と曲想の変化との関わりについて理解する。(知識及び技能)
- リズムや旋律、形式などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したものと関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- 曲の構成と曲想の変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

4 評価規準 ※評価略記号 知識・技能 知 技 知技

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 曲の構成と曲想の変化との関わりについて理解している。	リズム、旋律、形式などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したものと関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	曲の構成と曲想の変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

5 題材の指導計画及び評価計画（2時間扱い）（本時 1 / 2）

次	時配	◎ねらい　○学習内容　・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素〕 （音符、休符、記号や用語）	○教師の働きかけ ・目指す生徒の姿 【視点】	評価規準 （評価方法）		
				知技	思	態
◎曲の構成に注目しながら、曲想の変化を味わう。						
第一次	第1時 （本時）	○「交響曲第5番」が、動機を中心として曲が作られていることを知る。 ○第1主題を鑑賞し、曲想と音楽を形づくっている要素を結び付けながら聴き、共有する。 ・思考ツールに記入する。 ・考えたことを、グループや全体で共有する。 ○第2主題を鑑賞し、知覚したことと感受したことを結びつけながら聴き、共有する。 ・思考ツールに記入する。 ・知覚したことと感受したことを全体で共有する。 ○提示部のよさや動機が繰り返し演奏されることのおもしろさについて考える。 ☆〔リズム、旋律〕	○動機を数えたり、楽譜を見たりして鑑賞させ、動機が複数回出てくことに気付かせる。 ○知覚したことと感受したこととの関わりについて考えることができるよう、思考ツールを活用してそれぞれ区別しながら考えさせる。 ○共感的な対話の雰囲気を醸成するために、自分も取り入れたいと思える考えや確信につながる考えを探すように声かけする。 ・リズム、旋律、形式などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 【視点1】【視点2】【視点3】			
	第2時	○曲全体の曲想の変化を感じ取りながら聴く。 ・ソナタ形式について学習し、それぞれの部分を聴く。 ・各部分の動機の変化について考える。 ・知覚したことと感受したことを思考ツールに記入する。 ・知覚したことと感受したことを全体で共有する。 ・ソナタ形式のよさについて考え、全体で共有する。 ○「交響曲第5番　ハ短調」のよさについて考えながら鑑賞する。 ・動機やソナタ形式について確認する。 ・作曲したときのベートーヴェンの状況を知る。 ・自分の考えをワークシートに文章で記述する。 ☆〔リズム、旋律、形式〕	○前時の第1主題と第2主題の聴き比べから、動機に着目して鑑賞したことを想起させる。 ・リズム、旋律、形式などを知覚しそれらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 ○作曲したベートーヴェンの状況などを伝え、作曲した時の気持ちも考えさせる。 ・曲想の変化や曲の構成に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 【視点1】【視点2】【視点3】	知 （記述・発言）	（記述・発言・聴取）	（観察・記述・聴取）

6 本時の指導（1/2）

（1）本時の目標

動機の変化に注目して提示部の2つの主題を聴き、動機の働きと音楽の構成が生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したものととの関わりについて考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。

（2）本時の展開

学習内容・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 (音符、休符、記号や用語)〕	○教師の働きかけ・目指す生徒の姿 ◇評価規準〈評価方法〉 【視点】
1 「交響曲第5番」が動機を中心として曲がつくられていることを知る。 ・動機について理解する。 ・曲の冒頭4小節を聴く。 ・提示部を聴き、動機が繰り返し出てきていることに気づく。 ・第1主題に動機が何回出てきたか数える。 ・楽譜を見ながら鑑賞し、動機を繰り返し使って曲がつくられていることに気付く。 2 本時の目標を知る。	○動機がリズムであることを理解させるために、動機のリズムを手拍子で打たせる。 ○曲の冒頭4小節のみを聴かせ、動機に注目しながら曲に興味・関心をもたせる。 ○動機が複数回出てくることに気付かせるため、動機の数を書かせたり、楽譜を活用させたりする。 【視点2】①
動機に注目しながら、曲想の変化を味わって聴こう	
3 第1主題を鑑賞し、曲想と音楽を形づくっている要素を結び付けながら聴き、共有する。 ・動機に着目しながら鑑賞し、知覚したことや感受したことをワークシートの思考ツールに記入する。 ・考えたことをグループで話し合い、新しい発見や共通する考えを見付ける。 ・考えたことやグループで話したことを、全体で共有する。	○言葉で表すことが苦手な生徒は、サポートシートの活用を促し、自分の考えに近い言葉を選んだりするよう声かけをする。 ○共感的な対話の雰囲気を醸成するために、自分も取り入れたいと思える考えや確信につながる考えを探すように声かけする。 ○思考ツールに友達で考えた新しい発見は色を変えて記入したり、共通する考えは丸などで印を付けたりする。 ○音楽を聴いて感受したことを全体共有し、共感したり多様な考えを認め合ったりさせる。 【視点2】①②【視点3】
4 第2主題を鑑賞し、曲想と音楽を形づくっている要素を結び付けながら聴き、共有する。 ・第1主題から曲想が変化したことに気付く。 ・動機の変化に着目しながら鑑賞し、知覚したことや感受したことをワークシートの思考ツールに記入する。 ・考えたことを全体で共有する。 ・第2主題に動機が出てきているか確認する。	○第1主題から第2主題の終わりまで鑑賞し、第2主題に変わったところで挙手をさせる。 ○書くことが思い浮かばない生徒には、第1主題での考え方や書いた内容を振り返らせて、それと比べてどのような変化があったかについて考えるよう促す。 ○副次的な旋律の中にも動機が隠れていることに気付いた生徒がいれば賞賛して取り上げる。いない場合は学習問題を確認し、動機を探しながら聴くように促す。 ○全体共有の場面では、必要に応じて再度音で確認する時間を設け、言語活動と鑑賞の往還を図る。 【視点2】①②【視点3】
5 学んだことを振り返り、提示部のよさや動機が繰り返し演奏されることのおもしろさについて考える。	○動機がどのように変化していったかについて全体で振り返ることで、動機に着目して鑑賞できるようにする。

- ・提示部を通して聴く。
- ・動機が反復と変化を繰り返しながら演奏されることの面白さについて考え、ワークシートに記入する。
- ・全体で共有する。

☆〔リズム、旋律〕

◇リズム、旋律、形式などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

(思考・判断・表現)

〈ワークシート〉